

令和6年度学校評価報告書

北海道旭川西高等学校長

1 本年度の重点目標

- (1) 観点別評価やICTを活用した授業改善、探究活動の充実により生徒の学力を高める。
(2) 生徒の主体的な活動の充実を図り、望ましい人間関係を形成できる生徒を育てる。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標 経営方針	教育目標、重点目標について、教職員アンケートでは90%程度の教員が、おおむね十分としており、保護者アンケートにおいても80%以上の高い評価を得た。業務精選と効率化による教員の負担軽減と教員の指導力向上を図ることにより、学校の教育活動を一層推進していく必要がある。	・教育目標・経営方針の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ妥当である。 ・先生方の熱量が感じられる。
改善方策	(1) 分掌・学年での更なる業務の精選と業務の平準化を図る校内体制を構築する。 (2) 計画的かつ効率的な会議等を通して、情報の共有と協働的な取組を推進する。 (3) 週休日の振替や変形労働時間制等を活用し、時間外在校等時間の縮減を図る。	
学習指導	教職員アンケートでは、授業の指導方法の工夫改善や観点別評価の実践について、高い、概ね取り組んでいるとの結果となった。保護者アンケートでは、昨年度よりも高い評価をいただいている。ICTを活用した授業改善が教職員及び保護者アンケートから課題として上げられているため、BYODを活用した授業改善を図り、基礎学力の向上と主体的で対話的な深い学びをさらに推進していく必要がある。	学習指導の「自己評価と取組」は、ほぼ妥当であり、「改善方策」は、ほぼ適切である。
改善方策	(1) 職員会議の効率化等により、BYOD活用に係わる校内研修や授業研究の時間、生徒の実態把握に係る時間を確保し、教員の指導力向上と授業改善を推進する。 (2) 観点別評価の在り方について、他校の実践事例等や生徒の実態を参考としながら、よりよい評価となるよう単元テスト等を活用し、校内の共通理解を進めながら改善を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。 (3) 生徒の学習習慣を定着させるためにGoogle Classroom等、オンライン教材の工夫改善を図る。	
進路指導	教職員アンケートでは卒業生や地域の人材を活用することについて高い評価となっている。生徒アンケートにおいて、生徒が主体的に考え取り組む資質が伸びていることが窺える。より充実させるため、進路シラバスの充実と年次・分掌との連携や進路講演などへの外部人材の活用が課題となっているため、組織的な進路指導を強めていく必要がある。	進路指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ともに適切である。
改善方策	(1) 卒業生が現役生徒へ助言する卒業生サポーター制度を活用し、キャリア教育の充実を図る。 (2) 道内大学訪問の実施、教職員のWEB研究会一斉参加の機会設定し、進路に係る指導力の向上を図る。また、適所に外部人材を活用し、効果的な進路指導を推進する。 (3) 保護者への情報提供を充実させ、家庭と連携した進路指導を継続していく。	

生徒指導	教職員アンケートでは、すべての教職員が概ね十分であると回答している。生徒アンケートにおいて、「悩みや困ったことがあったとき、いつでも先生に相談することができる」について、昨年度より大幅に改善されていることがうかがえる。今後も教育相談体制の改善を図り、支援委員会を中心とした組織的な取組を継続していく。いじめの未然防止やいじめの事故に対する組織的な対応についても、今年度認知6件となり潜在している状況を把握することができた。今後も、委員会と年次の連携を密にした組織的な取組を継続していく必要がある。	生徒指導の「自己評価と取組」は、妥当であり、「改善方策」は、ほぼ適切である。
改善方策	(1) いじめの未然防止に向けた情報共有の継続とSNSに係わる指導の強化を図る。 (2) 支援委員会を中心に特別な配慮を要する生徒についてSC及びSWなどの外部専門機関、スタディサポートグループと連携し支援を継続していく。 (3) いじめの未然防止や自殺予防に向け、啓発プログラムの実施を検討・実践していく	
健康安全指導	健康安全および生命を尊重する指導について、すべての教職員が概ね十分であると回答している。より充実した指導になるよう、外部機関と連携し指導の質を高めていきたい。	健康安全指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ともにほぼ妥当である。
改善方策	(1) 実効性のある避難訓練や防犯訓練を実施し、安全行動に対する生徒の意識と教員の指導力向上を図る。 (2) 公共交通機関の利用や自転車の乗り方についての指導を強化し、交通事故等の未然防止に努める。 (3) スマホの利用や制服など校則に関するアンケートを実施し、生徒会と連携しながら生徒が主体的に規範意識を高める態度を向上させる。	
理数教育	SSHの特色を発揮した教育活動について、教職員アンケートでは概ね十分以上が90%以上であった。保護者アンケートでも高い評価を得ている。また、生徒アンケートの「SSH校としての探究的な学びは楽しく、自分の思考力や表現力、コミュニケーション能力が向上したと思う」について、84%が概ね十分以上であった。取組が生徒の資質・能力の伸長にどれだけ寄与しているのか慎重に分析し、より推進するよう努める必要がある。	理数教育の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ともに適切である。
改善方策	(1) 学校HP、SNS等での積極的な情報発信を継続し、地域・保護者への周知と理解を図る。 (2) 探究活動支援TA、3年生メンターの他に「社会人アドバイザー」として地元企業などの地域人材によるサポート体制をより推進する。 (3) テーマ決定段階からの市や外部機関による指導・助言、「課題探究中間発表会」（7月実施）「研究発表会」（12月実施）までの研究支援を通して探究的な学習の発展を図る。 (4) ポートフォリオや課題解決・解決能力テストの活用を通して生徒の資質能力の向上を図る。	
開かれた学校づくり	広報活動について、教職員アンケートでは昨年度に比べ、改善しているとの結果であったが、保護者アンケートにおいては連携不足との状況もある。今後も、保護者・地域と連携を深めた教育活動のより一層の推進のため、マネジメントグループを中心に、地域・保護者への情報発信について改善を図る必要がある。	・開かれた学校づくりの「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ妥当である。 ・高校生が参画できるような企画・イベントに積極的に関わる。
改善方策	(1) 学校HPの改善や学校配信メール、SNSを活用し、学校生活の様子やや行事のトピックを画像で掲載するなど本校の活動内容を積極的にアップロードしていく。 (2) PTAとの連携を密にし、PTA活動に関して早期の連絡に努めていく。 (3) オープンスクールや学校説明会での運営や内容について見直しを図り、中学生にとって魅力ある取組みにしていく。保護者の参加も促進し、本校の教育活動の周知と理解に努めていく。	
公表方法	・学校評議員会、PTAの役員会等での公表及び本校ウェブページでの公開。	